



荒瀬井堰



荒瀬井路祭りでのつかみどりをする子供達

information

荒瀬井堰は寛永年間中津藩主細川忠興の企画に基づき、その後約60年を経た貞享3年(1668年)時の藩主小笠原信濃守長胤公の治世になって藩士片桐九太夫の発議により財士岩波源三郎外大工頭、大庄屋等の協力を得て完成されたもので、当時片桐九太夫は現在の中津市山国町槻木の草本金山奉行で中津より草本への往復の途中、かつての細川忠興公の計画に着目して中津東北部の一帯の広野にかんがいを企画し、まず農民代表たる今津作衛門外庄屋の同意を得て、時の財士岩波源三郎、家老竹内求女、大工頭内海作兵衛門等と相謀り藩主の裁可を求め、片桐九太夫が総司となり貞享3年10月に起工した。当時藩主の失政により財政意の如くならず、隧道掘削工事も困難を極め3カ年を費やし、通水を見るに至ったのは、元禄10年10月(1697年)で、起工以来12年余りの歳月を経て開通したものである。完成以来今日迄300年余り、この間洪水による井堰の流出、水路の決潰、又、干ばつによる水浄等幾多の障害、難関に遭遇しながら改修、補修を行い今日をなさしめたものであり、特に当時を偲べば取水口より下流2kmの間岩盤を掘削した隧道工事の困難さは、青の洞門や人柱の犠牲に優るとも劣らないものがある。平成11年度より農業用水再編対策事業により防火用水機能・生活用水機能・景観保全機能・親水機能などを充実させ多面的利用を図るとともに「荒瀬水路祭」を開催しながら21世紀創造運動を展開している。



お問い合わせ	中津市大字大貞371 荒瀬井堰土地改良区 TEL0979-32-2306 FAX0979-32-1665
--------	---